

キャンプ実施までの様々な交流

本市は、キャンプ地の誘致活動において、ラグビー以外の国際交流にも広げていくことが重要だと考え、ウェールズとの交流を広げていった。

カーディフ大学と北九州市立大学の交換留学・インターンシップ

カーディフ大学と北九州市立大学は、1992年に大学間協定を締結し、25年以上にわたって学生交流を続けている。カーディフ大学からの留学生には、英国名誉領事・本市参与のローレンス・チヴァス氏、第1回ラグビーウェールズ交流プログラムで本市を訪れたサラ・ナッシュ氏等がいる。

また北九州市立大学では、カーディフ大学からの留

学生に対して、本市内における企業研修(インターンシップ)プログラムを提供している。インターンシップを通じて、日本の企業経営・行政経営を学ぶことを目的とし、1993年から実施している。事前キャンプの決定後、2017年から市大規模大会誘致推進室(市国際スポーツ大会推進室)が窓口となり、北九州市役所でもインターンシップを受け入れている。

本市とウェールズの小学校間における交流等

事前キャンプの決定を受け、鞘ヶ谷小学校とウェールズのウィットチャーチ小学校との交流が始まった。

2017年度は、6年生児童を対象に、3学期にビデオレターの交換による交流を実施した。事前学習として、ウェールズ政府日本代表事務所から上級外務担当官の小堀洋子氏を講師に招き、出前授業を行った。

2018年度は、5年生児童を対象に、両校の児童間で手紙のやり取りによる交流を実施した。10月29日、西

南女学院大学のマルコム・スワンソン教授をゲスト講師に、英文手紙の書き方についての出前授業を行った。

こうした鞘ヶ谷小学校との交流を受け、2019年度は、9月17日、RWC2019 キャンプで来北中のウェールズ代表アラン・ウィン・ジョーンズ主将、ケン・オーウェンズ選手、コリー・ヒル選手等4名が鞘ヶ谷小学校を訪れ、全校児童を対象にウェールズやラグビーの紹介、記念撮影等を行った。



2017年度



2019年度



2018年度



2019年度

ウェールズの高校生ラグビーチームによる北九州市訪問

宗像市のグローバルアリーナで開催される「サニックスワールドラグビユース交流大会 2019」(4月28日～5月5日)にウェールズから参加するチームが、

市内の観光及び異文化体験を行った。本市を訪れたのは、カーディフ・アンド・ペール・カレッジのラグビー部に所属する高校生等で、小倉城庭園でのお茶体験や



小倉城天守閣での歴史学習など、日本の文化に触れた。スタジアムを見学した後、皿倉山をケーブルカーで登り、眼下に広がる本市の風景を楽しんだ。

ウェールズ政府日本代表事務所との交流

ウェールズ政府日本代表事務所は、企業誘致・貿易促進、観光、ウェールズのブランディング活動等、多岐に渡って日本・ウェールズ両国の関係を構築するために設置された、駐日英国大使館内に所在する機関である。同事務所との交流は、RWC2019事前キャンプの誘致活動でサポートいただいたことがきっかけで始まった。

2017年7月、中嶋竹春代表が本市を訪れ、市長表敬訪問、本城陸上競技場視察、鞘ヶ谷小学校校長との面談等を行った。2018年1月に同事務所の小堀洋子氏が鞘ヶ谷小学校で出前授業を実施、4月に中嶋代表が再び来北し、市長表敬訪問、北九州市立大学学長表敬訪問、スタジアム視察等を行った。2019年2月に、ロビン・ウォーカー代表(中嶋代表の後任)が来北し、市長、NHK北九州放送局、北九州中央郵便局、北九州市立大学等を訪問した。

この他にも、ラグビーウェールズ交流プログラムやウェールズ代表キャンプ等の実施においても同事務所と連携を密にしながら取り組んだ。RWC2019期間中

も同事務所は、ウェールズ首席大臣やロイヤル・ハーピストの来訪をサポートするなど、ラグビー交流だけでなく、政治、文化等の交流にも尽力した。



キャンプ実施に向けた機運醸成

ウェールズ代表という世界の強豪が本市でキャンプを行うことをいかに発信していくか、応援ムードをいかに高めるか、ファンをいかに増やすか、これらが重要なテーマとなった。そこで本市は、「街をウェールズカラーの赤で染める」、「公開練習でスタジアムを満員にする」、「代表チームをウェールズの歌でおもてなしする」をキーワードに機運醸成に取り組んだ。

また、キャンプが近づくにつれ、市民有志による機運醸成の取組みも盛んとなった。

都市装飾

2016年11月、事前キャンプ実施に関する覚書を締結した際、WRUから「街をチームカラーの真っ赤に染めてほしい」との要望があった。これに応え、歓迎と応援の機運醸成のため徹底した都市装飾に取り組み、2019年7月中旬から11月上旬にかけて、街をウェールズカラーの赤で染めた。

小倉都心部（JR小倉駅、商店街、市役所周辺）を中心に、北九州空港、JR各駅、各区役所、市内郵便局などに、赤を基調としたステッカーやポスター、のぼり、垂れ幕などを飾り付けた。小倉駅南北通路では、工事で設置されていた仮設の赤い足場や仮設壁面も利用した。小倉駅新幹線口から公開練習が行われるスタジアム方面へ延びるペDESTリアンデッキには、日本語と英語、ウェールズ語の3言語でチームを激励するステッカーを貼った。商店街には赤いのぼりとバナーがあふれ、地元商店街による巨大バナーも出現した。

市のシンボルである小倉城も、9月11日から15日の夜にはライトアップで赤く染まった。スタジアムも、キャンプ期間と前後して、赤くライトアップした。

また、企業等と連携し、市内を走行する路線バス、郵便車両、緊急車両（消防車、救急車）、市公用車など車両を活用したPRも進めた。

こうした徹底した都市装飾により、市民にウェールズが強く認識されるようになった。また「ウェールズ色に染まる街」、「赤色市民に浸透」、「深紅の街」などの見出しで、国内外の報道機関やWebが報じた。ウェールズの首席大臣が本市を訪れ、これら都市装飾を視察した。



ウェールズ国歌等の合唱でおもてなし

ウェールズは「歌の国」の異名を持つほど、他に類を見ないほど歌を好む国である。2018年11月に北橋市長らがキャンプ実施に関する覚書の締結のためウェールズを訪問し、ウェールズ対日本のテストマッチを視察したとき、7万5千人の観衆がウェールズ国歌の大合唱でスタジアムを包み、選手に力を与えていた。そこで、これを本市で再現する取組みを行った。曲目は、ウェールズ国歌「ランド・オブ・マイ・ファー

ーズ」と讃美歌「カロン・ラン」の2曲とした。いずれもウェールズ語の歌で、ウェールズ代表を応援するときに観客が大合唱する歌である。

2019年6月から、ウェールズの歌で代表チームを歓迎する「歌声大募集」をチラシや市ホームページ、SNSで呼びかけた。約800人の応募があり、YouTubeや市が作成したCDや歌詞カードを配付して各自練習してもらった。

また、民間有志のグループ、小中学校、市職員有志等が独自に練習会を開催した。9月16日の公開練習直前PRイベントでは、2,000名の市民が集まり、スクラム・ユニゾンとともに歌を練習した。

公開練習には15,300名の市民が集まり、ウェールズ国歌を大合唱して代表チームを出迎えた。

その様子は国内外で大きく報道され、感動を呼んだ。



小倉都心部以外での主な都市装飾実施状況

- JR各駅への幟の設置
- 市内郵便局への幟・ポスターの設置
- 北九州空港への懸垂幕の設置
- 黒崎駅の装飾

その他の取り組み

ウェールズラグビーのファンを増やす取り組みとして、北九州ラグビー協会が市民有志を募集して、2018年、2019年と2年連続で「わっしょい百万夏まつり」のパレードに参加した。第1回ラグビーウェールズ交流プログラムの一環として参加した2018年は、WRU関係者ととも市民約300名が「Go Go Wales!」の掛け声で大いに盛り上がり、「百万賞」を受賞した。(なお、2017年もパレード参加を計画していたが、台風で中止になった。)



2018年3月、市役所1階ロビーに「大規模国際スポーツ大会等PRコーナー」を設置した。ウェールズ代表のユニホームやサイン入りボールなどの展示のほか、PR動画を放映するモニターも置かれ、ウェールズ代表選手から寄せられたメッセージなどを紹介した。



2018年4月から市消防局のすべての消防車・救急車、5月から全ての市公用車にウェールズ国旗等をあしらったステッカーを貼付してPRした。

10月には、日本郵便(株)が、北九州市域の全郵便配達車両に応援ステッカーを貼付して、PRした。



2018年6月から、ウェールズラグビーのキャンプ、交流プログラムのPRのため特設ホームページを開設した。ツイッター等SNSでタイムリーに情報発信した。

2019年1月21日には、くまモン(熊本県のマスコットキャラクター)が、熊本県で開催されるRWC2019のウェールズ-ウルグアイ戦などをPRするため、北橋市長を表敬訪問した。

2月27日に東京で開催された「第11回北九州市応援団の集い」、3月9日に福岡市で行われた「中川家と学ぼう!ラグビーフェス2019」にブースを出展し、ウェールズ交流プログラムとキャンプを紹介・PRを行った。



2月から5月にかけて、西日本シティ銀行街かどギャラリーでも、ウェールズラグビーのファンを増やす取組みをPRした。またキャンプ直前には、北九州銀行本店ロビーにもPRコーナーを設置した。



2019年3月から11月にかけて、西鉄バス北九州(株)の協力で、ウェールズチームを応援するラッピングバスが登場した。



6月から9月にかけて、「ウェールズ応援団」を募集した。これは、ラグビーウェールズ交流プログラムのスポンサーのような本格的な企業協賛ではなく、草の根サポーターのような形で広く寄付・協賛を募り、企業等30社、個人41名から応募があった(なお、この募集に当たっては、交流プログラムスポンサーと同様、企業等への訪問活動を行った。)



400周年を迎えた2019年7月の小倉祇園太鼓では、「レッドドラゴン」をしつらえた記念山車が製作され、応援と祭りを盛り上げた。

デザインと製作を担当したのは、西日本工業大学デザイン学部の中島浩二教授で、翼を広げ、右腕にラグビーボールをつかんだレッドドラゴンが山車に乗り、炎をイメージした煙を吐き出す仕組みも取り入れられた。



8月、スタジアムで開催されたわっしょい百万夏まつりの前夜祭では、ウェールズ国歌の演奏に合わせ、真っ赤な花火が打ち上げられた。



8月、市民有志が、小倉駅小倉城口(南口)にある小倉祇園太鼓の像にWRUのTシャツを着せるなどユニークなPRを行った。



9月には(株)スターフライヤーが、ウェールズ代表キャンプや交流を紹介するビデオを国内線の機内で上映した。

北九州ラグビー協会は、機会あるごとに積極的に会員に向けて情報発信を行った。8月には、臨時会議を開催し、吉田幸正会長はウェールズの応援を呼びかけた。

夏頃から、ラグビー以外の様々な団体からも協力を得ることができた。北九州商工会議所、北九州青年会議所、北九州青年経営者会議、北九州活性化協議会、西日本工業倶楽部等の民間団体、自治会、スポーツ振興北九州市議会議員連盟、ギラヴァンツ北九州、ラグビーウェールズ交流プログラムスポンサー、市内小中高校、福岡県、北九州都市圏構成自治体、市役所など、多くの団体も会員等に向けてウェールズの応援を呼びかけた。